



「やはり義経は、チンギス・ハーンだった」

いやーあっという間にいい季節になりましたね、皆様お元気ですか？

相変わらず遅れ遅れになってすみません。

しかしこのGWは、妻がまさかのパスポート切れで、旅行が中止になりましたので、いい機会に本を三冊も読める程、しっかり勉強しました。

今回の最近びっくりしたこと第2弾はこれです。

そんなまさか〜と思われる方が多いかと思いますが、結構これは信憑性の高い説なのです。この本を書かれたのは、東北大学の名誉教授である田中英道さんですが、氏によるとそもそもこの説は日本人が言っているだけではなく、かの有名なドイツ人医師のシーボルトが日本に関する膨大な資料を集め、実地検分もした上で、帰国後まとめた著書「日本」の中でこの説を展開し、広く世界に紹介しています。(1823年来日)

その中では、義経が蝦夷島を脱出したとされる1190年にテムジン（チンギス・ハーンの即位前の名）。という人物が出現する。

源氏もチンギス・ハーンも白旗を用いていたこと、成吉思汗の「汗」という称号はこれ以前にアジアで用いられたことはなく、日本の官位「守」に由来するという可能性がある事。

オランダの尺度「フット」が日本の「尺」とほぼ同じなのは、モンゴルがヨーロッパを征服した際に伝わったものであるが、チンギス・ハーンが日本人であったから、モンゴルでもその尺度を使っていたと説明しています。

加えて彼は現地でも調査しており、シーボルトが中国で見た元の太祖（チンギス・ハーン）についての碑文には、兄の怒りを買って討伐されかけた太祖が日本から満州に渡り、モンゴル入りして国を成した旨が記されていたとも語っています。

この碑文の内容は、まさに義経と頼朝の関係をそのまま説明したものです。

明治三（1870）年に来日したアメリカ人教師グリフィスもシーボルト説の影響を受けており、帰国後、ニューヨークで出版した著書「皇国」のなかでこの説に触れています。

この様に外国から来た学者や知識人が日本に来て研究し、世界に向けて発信しているのに対し、日本側が「都市伝説」みたいな扱いになっているのは、

「そんな大それたことを日本人ができるわけない」といった戦後自虐史観がマインドブロックになっていると田中教授は述べられています。

そもそもこのヨーロッパ全土まで勢力を伸ばした巨大帝国を打ち破ったのは、日本人なんですよけどね...

弘安の役（1281年）に負けた後は、凋落の一途を辿ったという事はあまり知られてないかもしれませぬ。

しかし鎌倉幕府に追われてモンゴルに逃げた義経が大帝国を作ったが、最後は鎌倉幕府に負けてしまうとは...

因みにフビライ・ハンが重用したマルコポーロが「東方見聞録」で日本を大絶賛していたのは、当時ヨーロッパ全土を恐怖に陥れていたモンゴル軍に日本が2度も勝利したということが影響しているといわれ、彼が黄金の家と言っていたのは、義経がいた平泉の中尊寺金色堂のことではないかと言われています。

義経が騎馬戦を最も得意とする武将であったことはご存じかと思いますが、モンゴル軍も騎馬戦を得意とする軍隊です。

ただ当時のモンゴルはバラバラに散らばった遊牧民で、統率の取れた軍隊などはありませんでした。

日本の騎馬戦に詳しい者がいなければ、あれだけ短期間に統率の取れた騎馬軍を作り上げることはできなかったでしょう。

またモンゴル軍は義経が活躍した有名な「一ノ谷の戦い」や「屋島の戦い」と同じような戦法で勝利しており、藁人形やたいまつを数多く作って大軍に見せかける戦法を取っていました。

また当時の鎌倉武士が行っていた「巻き狩り」という狩猟をチンギス・ハーンも行っていたと言われています。

その他にも様々な証拠が挙げられており、

- 義経が平泉を脱出してからの経路である北海道、そして対岸のロシアには義経ゆかりの神社やアイヌによる伝承、ハンガンやクローといった義経の別称のついた地名が多数ある。ナホトカのハンガン岬の古城遺跡には「難を逃れて日本からやってきた武将がここに城を築いた」「のちに武将はこの城を娘に任せ、自らは内陸に入って大王になった」という伝承がある
- テムジンという名前は義経が菅原道真を尊敬し「天神」と名乗っていたことと一致する
- チンギス・ハーンの紋章と源氏の家紋が非常に似ており、どちらも笹りんどうである。(写真1)
- 似顔絵がそっくり(写真2)、同年代である・・・西洋美術史の権威である田中英道氏によると、似顔絵といっても、写真がない当時はプロの似顔絵師が非常に正確な描写をしておりバカにできないとのこと。(そんなに似てるかな～?)
ただ田中教授によると当時の義経は都を追われた落ち目の田舎侍風、チンギス・ハーンの方は大帝国を成立させた大皇帝に描写されている点が非常にリアルとの事
- チンギス・ハーンが滞在したヘイセンというモンゴル自治区の地名は、義経ゆかりの平泉からきているのではないか
- モンゴルの国号「元」と「源」はほぼ同義語と分かっているのは明らかに日本人
- チンギス・ハーンの漢字表記「成吉思汗」は義経の最愛の側室である「静御前」が詠んだ歌にある「なすよしもがな」の漢字読みである
- モンゴル軍は日本と同じく駅伝制や通行手形を採用し、政治にも律令制、軍隊の部隊構成も日本と同じであった。

どれも状況証拠ばかりだとは言え、これだけの物があれば確かに信憑性が出てきますよね。因みに世界一散らばっている遺伝子はチンギス・ハーンのもので、1600万人が子孫といわれています。※参考文献巻末記載

DNA鑑定で日本人の遺伝子が出てくれば、同一人物であることがいずれ立証されるかもしれませんね。

最後に田中教授の著書のエピローグを紹介します。

チンギス・ハーンは世界最大の面積を誇ったモンゴル帝国の礎を作った偉大な皇帝であり、東洋史においても、西洋史においても重要な人物となりました。つまり西洋と東洋をつないだことで、初めて「世界史」を作った人物としても評価されています。

そんなチンギス・ハーンの正体が、実は日本を追われて大陸に渡った日本の武士であったとしたら、世界史を変えるほどの一大事件です。
これほどワクワクする話はないでしょう。義経がチンギス・ハーンになったのなら、私も歴史家として、こんなにうれしいことはありません。
この説はこれからも検証し続けていく所存です。

写真1

[image17520164.jpg_\(425×640\)](#)

写真2

[image17520163.jpg_\(640×527\)](#)

<https://www.yokoreki.com/wp-content/uploads/2019/07/%E3%83%81%E3%83%B3%E3%82%AE%E3%82%B9%E3%82%AB%E3%83%B3%E4%B8%80%E6%97%8F%E3%81%A8%E3%81%9D%E3%81%AE%E7%B3%BB%E8%AD%9C.pdf>

ブラックスワン食糧保障
草間 弘人

正しく表示されない場合は[こちら](#)

今後も引き続きメールの受信を希望される方は [こちらをクリック](#) してください。今後メールの受信をご希望されない方は、こちらから [配信停止手続きが行えます。](#)

大阪市港区 弁天1-2-1

[配信停止](#)

